

## 岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻

### 認証評価結果

#### 岡山大学教職大学院の評価ポイント

- ・岡山大学教職大学院は、アクション・リサーチャーとしての教師を養成するという統一的な目標のもと、学生の主体的な学びを促すことに配意した有機的な教育課程を編成している。ワークショップ型の双方向授業を中核に、理論と実践の往還を具現化する授業方法・形態が整備され、現職教員学生と学部新卒学生が共に学ぶ形式も高い効果を上げている。
- ・定員の拡大に対応すべく、学部卒業学生および現職教員について、それぞれきめ細かな入試区分を設定しており、評価基準の明確化や関連情報の公開を含め、公平で開かれた入試体制により学生の受け入れを行っている。
- ・実習を振り返る省察の体制も含め、学部新卒学生および現職教員学生のそれぞれに対し、適切かつ充実した指導がなされている。学生の属性や希望によって実習の期間や時期についても柔軟な運用がなされ指導に活かされている。
- ・研究結果を対外的に発表し、校内研修等現場に対しても適用するなど、幅広い成果を上げており、十分に教育の効果を上げていると認められる。自己評価シートを学生に作成させて成長の把握を試みるなど、学習成果を検証し向上させる不断の取り組みも行われている。修了生および所属長に対するアンケートなど、学習の成果を具体的なデータをもって検証しており、十分な成果の裏付けともなっている。
- ・文部科学省「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」における調査研究をはじめ、カリキュラムの構想と開発、ラーニングポイント制の成果検証など、教育活動に対する多角的な研究活動を展開し、学会等における発表も積極的に進められている。
- ・教育の理念およびチーム指導の基本的方針を堅持しつつ、特定の専任教員に負担がかからないための配慮が行われている。
- ・ラーニングポイント制の運用、附属学校教員の受け入れ等、授業との密接な関連も含め、外部との多角的な連携を行っている。岡山県教育委員会および岡山市教育委員会との連携協力会議についても運用を重ねており、認識と課題の共有を進めている。

令和5年3月28日

一般財団法人教員養成評価機構

## I 認証評価結果

岡山大学教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）は、教員養成評価機構の教職大学院評価基準に適合していると認定する。

認定の期間は、令和10年3月31日までとする。

## II 基準ごとの概評

### 基準領域1 理念・目的

基準1-1 教職大学院の理念・目的が法令に基づいて明確に定められていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職大学院の理念・目的は「国立大学法人岡山大学管理学則」第60条の2及び「岡山大学大学院教育学研究科規程」第2条において、明確に定められている。

基準1-2 教職大学院のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーが制定され、ポリシー間に整合性があること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

3つのポリシーは互いに整合性をもって制定されており、教職大学院において養成しようとする教員像と、それに即した選抜および教育の理念と指針が明確に定められている。

### 基準領域2 学生の受入れ

基準2-1 アドミッション・ポリシーに基づき、公平性、平等性、開放性が確保され、適切な学生の受入れが実施されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

定員の拡大に対応すべく、学部卒業学生および現職教員について、それぞれきめ細かな入試区分を設定しており、評価基準の明確化や関連情報の公開を含め、公平で開かれた入試体制により学生の受け入れを行っている。

基準2-2 実入学者数が、入学定員と比較して適正であること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

実入学者数については、入学定員を満たしている年度もある一方、年度によって変動がみられており、安定した入学者の確保が今後も望まれる。教育学部生における教職志願者の減少など構造的な要因に対しては、対象となる層を明確化したうえでの学部内広報の実施など適切な対応を行っている。また岡山県教育委員会および岡山市教育委員会と連携を深めることにより、優秀な現職教員学生を安定的に受け入れることができている。

### 基準領域3 教育の課程と方法

基準3-1 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、理論と実践を往還・融合させる教育に留意した体系的な教育課程が編成されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

アクション・リサーチラーとしての教師を養成するという統一的な目標のもと、学生の主体的な学びを促すことに配慮した有機的な教育課程が編成されている。

今後は、教科領域とのさらなる融合および授業での連携を促進すること、また連携協力会議（教育課程連携協議会）での検討を通して現場からの要請に即した実践的な学びをさらに推進することが求められる。

基準3-2 教育課程を展開するにふさわしい授業内容、授業方法・形態が整備されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

ワークショップ型の双方向授業を中核として、理論と実践の往還を具現化する授業方法・形態が整

備されている。現職教員学生と学部新卒学生が共に学ぶ形式も高い効果を上げていると認められる。なお、現職教員学生と学部新卒学生では経験も異なり、関心を持つ領域も相違することから、それぞれに配慮した内容の整備など一層の充実も求められる。特に現状では教科領域への比重が高くなっていることから、学生の要望にさらに対応し、生徒指導関連の内容拡充など、実践的な領域の比重もさらに高めていくことが望まれる。シラバスについても、一部不明瞭なものや簡潔に過ぎる記述については見直しを進めて行くことが望ましい。

### 基準 3-3 教職大学院にふさわしい実習科目が設定され、適切な指導がなされていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

実習を振り返る省察の体制も含めて、学部新卒学生および現職教員学生のそれぞれに対して、適切かつ充実した実習および指導がなされている。学生の属性や希望によって実習の期間や時期についても柔軟な運用がなされ指導に活かされている。実習期間中の大学教員による訪問および指導については今後一層の充実が期待される。実習日誌や実習記録等に関する体系的な整備、および指導上の有効な活用などについても今後の検討が望まれる。

### 基準 3-4 学習を進める上で適切な指導が行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生に対して十分に情報を提供し、また多様な教員が配置されるなど、適切な指導が行われている。教科の領域が拡充されたことに対応して、大学教員同士の情報共有と連携の強化など、さらなる発展への取組も求められるところである。また生徒指導、教育相談、あるいは学習科学等、教科の学習を支える関連領域についても、学校現場からのニーズや学生の関心を今以上に汲み取り、内容の充実と有機的な連携をいっそう進めることが期待される。

### 基準 3-5 成績評価・単位認定、修了認定が大学院の水準として適切であり、有効なものとなっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

成績評価と単位認定、修了認定は、明記された適切な基準に沿って行われ、その有効性も合議によって十分に担保されている。現職教員学生と学部新卒学生の特性に応じた評価基準のあり方について、今後検討が期待される。

## 基準領域 4 学習成果・効果

### 基準 4-1 教職大学院の目的及びディプロマ・ポリシーに照らして、在学生における学習の成果・効果があがっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

研究成果の発表や、校内研修等の現場に対する適用など、幅広い成果を上げており、十分に教育の効果を上げていると認められる。自己評価シートを学生に作成させ、その継続的な記入を通して成長の把握を試みるなど、学習の成果を検証し向上させる不断の取り組みが行われている。

### 基準 4-2 修了生が教職大学院で得た学習の成果が、学校等に還元されていること。また、その成果の把握に努めていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

修了生および所属長に対するアンケートをはじめ、大学院における学習の成果がどのように学校に還元されているか、具体的なデータをもって検証しており、十分な成果の裏付けもなっている。教科を中心とした学習指導面での成果還元から、さらに視野と対象を拡大し、生徒指導領域など学校現場からの要請にも目配りを広げること、また教職大学院から修了生へのフォローアップをいっそう進めることを期待したい。

## 基準領域 5 学生への支援体制

基準 5-1 学生相談・助言体制、キャリア支援等が適切に行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生生活への支援と相談、キャリア支援に関する情報提供、特別な支援を要する学生への対応、ハラスメント対応等、いずれも支援体制が整備されている。

基準 5-2 学生への経済支援等が適切に行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

入学金免除・徴収猶予と授業料免除をはじめ経済的支援の体制が整っており、現職教員学生に対する長期履修制度や経済的支援なども充実したものとなっている。附属学校教員の修学に対しても支援がなされている点は特筆すべきである。

基準領域 6 教員組織

基準 6-1 教職大学院の運営に必要な教員が適切に配置されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

設置基準等の規定数を上回る専任教員 37 名（研究者教員 22 名、実務家教員 15 名）を確保しており、適切な教員数が配置されている。生徒指導領域や教員の働き方など、教育現場における近年の課題に対応した関連諸領域に配慮した人材の配置も含め、今後もさらに充実を進めることが望ましい。

基準 6-2 教員の採用及び昇格等の基準が、適切に定められ、運用されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

「岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻における教員の専攻・審査にかかる研究業績・教育業績等に関する申し合わせ」において独自の採用・昇任基準が適切に設定され運用されており、さらに社会的活動に対する評価も明文化されている。教員の男女比についても大きく改善が進んでおり、目標値の達成に向けて今後もさらなる対応が期待される。

基準 6-3 教職大学院における教育活動に関する研究活動が組織的に取り組まれていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

文部科学省「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」における調査研究をはじめ、カリキュラムの構想と開発、ラーニングポイント制の成果検証など、教育活動に対する多角的な研究活動を展開し、学会等における発表も積極的に進められている。岡山大学教職大学院における重要な蓄積として、研究活動が今後も継続して展開されることを期待する。また、取り組みや知見を学生とも幅広く共有するなど、成果を指導に還元するための検討を期待したい。

基準 6-4 授業負担に対して適切に配慮されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育の理念およびチーム指導の基本的方針を堅持しつつ、特定の専任教員に負担がかからないための配慮が行われている。学生定員に対して専任教員数が少なく、学部・修士課程の授業担当を中心に負担が多くなっている状況については、学部における今後の改革等とも連動した改善の進展が望まれる。

基準領域 7 施設・設備等の教育環境

基準 7-1 教職大学院の教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備並びに図書、学術雑誌等の教育研究上必要な資料が整備され、有効に活用されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

院生相互の対話や自主的な学習を促すための資料、図書、教科書等、また電子黒板やポスタープリンターをはじめ教育と学習に資する多彩な機材が整備されている。大学院生の学修スペースも充実したものとなっているが、いずれも規模と定員の増加に対応するべく、今後も継続的な改善を検討いただきたい。

## 基準領域 8 管理運営

### 基準 8-1 各教職大学院の目的を達成するために必要な管理運営のための組織及びそれを支える事務組織が整備され、機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

「教職実践専攻運営委員会に関する申し合わせ」のもとに管理体制が整えられており、独自の事務組織は持たないものの、教職情報サポート室が実務を担当して、教育研究活動に対する適切な支援がなされている。事務組織の見直しについては前回の評価でも指摘されているところであり、今後もさらに強化を進めていくことが望ましい。

### 基準 8-2 教職大学院における教育研究活動等を適切に遂行できる経費について、配慮がなされていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育学研究科から専攻共通経費および学生指導経費が配分されており、十分な教育研究活動を遂行できるよう配慮がなされている。LAN 環境の整備構築をはじめ、当初予算において想定されていなかった経費が必要となる事態は今後も予想される。

### 基準 8-3 教職大学院における教育研究活動等の状況について、広く社会に周知を図ることができる方法によって、積極的に情報が提供されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

各種の案内資料や Web サイトによって情報を提供するとともに、教育実践研究報告書や報告会要旨集などを取りまとめ、教育活動と研究成果の公表を着実に遂行している。

## 基準領域 9 点検評価・FD

### 基準 9-1 教育の状況等について点検評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され、取り組みが行われており、機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

自己評価についての規則と実施規定が明確に定められ、内部評価、学生や修了生に対する調査、岡山県教委および市町村教育委員会等との協議会など多面的な評価が継続して行われている。特に県教委との意見交換会は、研究と教育に対する現場からの要請、指導の実態と方針および派遣される現職教員のミッション共有など、実務的にも有用なものとなっており注目される。議事録等のかたちで意見交換の詳細が記録され、関係諸方面にも還元されることが期待される。

### 基準 9-2 教職大学院の教職員同士の協働によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動組織が機能し、日常的にFD活動等が行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

共同担当する教員同士で、講義内容の適切性や方法の有効性を相互評価するなど、日常的な取り組みに対する自己点検評価を行うとともに、外部研修への参加、他教職大学院との交流をFDの機会として積極的に活用している。他教職大学院からの訪問調査などに複数名の事務職員も参加することでSD活動としての機能も果たされており、取組みとしてのさらなる拡充も期待される。

## 基準領域 10 教育委員会・学校等との連携

### 基準 10-1 教職大学院の目的に照らし、教育委員会及び学校等との中核的な拠点として連携する体制が整備されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

ラーニングポイント制の運用、附属学校教員の受け入れ等、授業との密接な関連も含めて多角的な連携を行っている。岡山県教育委員会および岡山市教育委員会との連携協力会議についても運用を重ねており、大学側からの関心と教育現場からの要望のすり合わせなど、互いの認識の共有と深化が進められている。組織間の相互理解と新たな協力のあり方を示すことが今後も期待される。

### Ⅲ 評価結果についての説明

岡山大学から令和3年11月26日付け文書にて申請のあった教職大学院(教育学研究科教職実践専攻)の認証評価について、その結果をⅠ～Ⅱのとおり報告します。

教員養成評価機構では、「教職大学院等の認証評価に関する規程(平成21年10月20日理事会決定)」に基づき「認証評価実施要項」、「自己評価書作成要領」、「訪問調査実施要領」等により岡山大学が実施した自己評価を前提に書面調査及び訪問調査を行い、評価結果を作成しました。

評価は、機構の評価委員会の下にある評価専門部会の評価員6名が担当しました。評価員は、教職大学院等を有する大学の関係者、有識者で構成されています。評価にあたっては、教職大学院評価基準(平成21年10月20日決定)に基づき実施しました。

書面調査は、令和4年6月27日に提出のあった「教職大学院認証評価自己評価書」、「基礎データ：1 現況票、2 専任教員個別表、3 専任教員の教育・研究業績、4 シラバス」及び「添付資料一覧：資料1 国立大学法人岡山大学管理学則ほか全112点、訪問調査時追加資料：資料1132022年度大学院教育学研究科入試学生募集要項ほか全18点」をもとに調査・分析しました。各評価員から主査(岡山大学教職大学院認証評価担当)に集められ、調査・分析結果を整理し、令和4年10月12日、岡山大学に対し、訪問調査時における確認事項と追加提出書類・閲覧書類に関する連絡をしました。

訪問調査は新型コロナウイルス感染症対策として、実施方法を「現地訪問視察」と「ウェブによる面談」に分け、令和4年11月10日に評価員3名が現地訪問視察を、令和4年11月21日に評価員6名がウェブによる面談を岡山大学教職大学院(教育学研究科教職実践専攻)に対して実施しました。

現地訪問視察では、連携協力校の視察・同校校長及び教員等関係者との面談(1校1時間)、学習環境の状況調査(30分)、教職大学院関係者(責任者)及び教員との面談(2時間)、学生との面談(1時間)、関連資料の閲覧などを実施しました。

ウェブによる面談では、教育委員会等関係者との面談(1時間)、連携協力校校長及び教員等関係者との面談(1時間)、授業等教育現場視察(1科目1時間)、修了生との面談(45分)、教職大学院関係者及び教員との面談(30分)などを実施しました。

書面調査と訪問調査に基づき、各評価員から主査に調査・分析結果の最終報告が集められ、主査及び副査が評価結果を取りまとめた後、評価員全員で確認し、令和5年1月13日開催の評価専門部会において審議し「評価結果原案」としました。

「評価結果原案」は、令和5年1月20日開催の第2回評価委員会に諮り審議し、「評価結果案」としました。「評価結果案」を、岡山大学に示し、意見申立の手続きを経たのち、第3回評価委員会を行い、令和5年3月16日をもって最終的な評価結果を決定いたしました。

評価結果は、表紙の「教職大学院の評価ポイント」、「Ⅰ 認証評価結果」、「Ⅱ 基準ごとの概評」で構成されています。

「教職大学院の評価ポイント」は、岡山大学教職大学院(教育学研究科教職実践専攻)の教育課程、教員組織、施設・設備、そのほか教育研究活動について、評価により見出される特色や大きな問題点について記しています。

「Ⅰ 認証評価結果」は、機構の教職大学院評価基準に適合しているか否かを記しています。適合していない場合は、その理由を付しています。

「Ⅱ 基準ごとの概評」は、基準ごとの評価結果、及び基準ごとの評価により見出される特色や問題点について記しています。

【長所として特記すべき事項】は、自己評価書に記載されている事項のうち、本評価結果にも記載すべき事項と判断したものについてのみ記しています。自己評価書に記された事項が本評価結果に載っていないとしても、大学が記した事項を否定するものではありません。

Ⅰで認証評価基準に適合しているにもかかわらず、問題点や改善を要する事項が記載された事項は、今後、是正するような措置を講じることを求めるものです。ただし、このことについて、後日、改善報告書等の提出を求めるものではありません。

以上

## 添付資料一覧

- 資料 1 国立大学法人岡山大学管理学則
- 資料 2 岡山大学大学院教育学研究科規程
- 資料 3 「3つのポリシー」(岡山大学大学院教育学研究科 web サイト)
- 資料 4 「アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)」(『2022 年度岡山大学大学院教育学研究科入試 学生募集要項』p. 1)
- 資料 5 「アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)」(『2023 年度 岡山大学大学院教育学研究科案内』p. 4)
- 資料 6 「アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)」、「入試方法及び配点」(岡山大学大学院教育学研究科教職大学院 web サイト)
- 資料 7 「入学者選抜方法等」(『2022 年度岡山大学大学院教育学研究科入試 学生募集要項』 p. 8, p. 14, p. 20, p. 26)
- 資料 8 「障がい等のある方の出願」(『2022 年度岡山大学大学院教育学研究科入試 学生募集要項』 p. 53)
- 資料 9 「一般入試」合格者の出身大学・学部等(平成 30～令和 4 年度)
- 資料 10 「現職教員入試」合格者の現任校の校種・所在地等(平成 30～令和 4 年度)
- 資料 11 平成 30～令和 4 年度入試結果一覧
- 資料 12 令和 5 年度大学院教育学研究科入試選抜選考に関する基本方針 専門職学位課程 教職実践専攻 [訪問時に提示]
- 資料 13 岡山大学教育学部公立学校教員採用試験受験・合格状況(平成 28～令和 3 年度)
- 資料 14 岡山大学教職大学院 学生募集に関する広報計画(令和 4 年度)
- 資料 15 岡山大学教職大学院ラーニングポイント制による単位認定者(2019 年度以降)
- 資料 16 「1. 岡山大学教職大学院が目指すこと」、「2. 養成しようとする教員像」、「5. カリキュラムの特色と構成」(『2023 年度 岡山大学大学院教育学研究科案内』p. 5-6)
- 資料 17 「学部新卒学生の学び」及び「現職教員学生の学び」(『2023 年度 岡山大学大学院教育学研究科案内』p. 9-11)
- 資料 18 連携協力に関する覚書
- 資料 19 「授業科目一覧」(『2022 年度岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』pp. 79-80)
- 資料 20 「授業科目一覧表」(『2022 年度岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』p. 85-88)
- 資料 21 令和 2 年度「授業の指導計画と学習開発」における現職教員学生の「まとめ」
- 資料 22 令和 3 年度「特色あるカリキュラムの開発」における発表資料
- 資料 23 令和 3 年度「授業の指導計画と学習開発」における発表資料
- 資料 24 ICT を活用した学習例 (Padlet を活用したリアルタイムコメント)
- 資料 25 「学部新卒学生「初任期リーダー」のコースワーク」(『2020 年度岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』p. 73)
- 資料 26 「学部新卒学生「初任期リーダー」のコースワーク」(『2022 年度岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』p. 76)
- 資料 27 実習校担当教員配置表、並びに実習校指導教員の役割についての申し合わせ
- 資料 28 「学校における実習」事前説明会資料
- 資料 29 現職教員学生の合同省察会の日程
- 資料 30 岡山市教育研究研修センターでの研修講師(研修案内)
- 資料 31 岡山県総合教育センターにおける教育研究発表大会の報告資料
- 資料 32 「学校における実習」(実習校: 倉敷市立老松小学校)の成果を校内研修において発表した資料
- 資料 33 岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻 2022 年度オリエンテーション資料
- 資料 34 岡山大学大学院教育学研究科 研究指導計画書
- 資料 35 岡山大学大学院学則
- 資料 36 「履修等について 7 成績の登録及び通知」(『2022 年度岡山大学大学院教育学研究科学生便覧』p. 60)
- 資料 37 教職大学院の教員を対象とした調査の結果

- 資料 38 『岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）教育実践研究報告書』目次第 9号（平成 29 年度）～第 13 号（令和 3 年度）
- 資料 39 修了後の学校・地域への貢献（各種研修講師等）
- 資料 40 「教育実践研究」における学生の自己評価ポートフォリオの事例
- 資料 41 在校生・修了生による学会発表一覧
- 資料 42 現職教員学生自己評価シート（入学時・中間（1 年次修了時）・最終（2 年次修了時））
- 資料 43 学部新卒学生自己評価シート（課題発見実習・課題探究実習）
- 資料 44 平成 28～令和 2 年度の入学者の学籍異動状況
- 資料 45 平成 29～令和 3 年度の専修免許取得者数
- 資料 46 平成 21～令和 3 年度の学部新卒学生の教員就職状況
- 資料 47 教職大学院修了生（新卒）及び所属長に対する修了生アンケート調査（所属長）と結果報告書
- 資料 48 教職大学院修了生（現職教員学生）及び所属長に対する修了生アンケート調査と結果報告書
- 資料 49 赤木恭吾・服部康正・三沢良・金川舞貴子「岡山大学教職大学院における学修の成果とその活用の検証－現職学生修了生へのフォローアップ調査の結果報告－」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』179 号、2022 年、pp.1-14
- 資料 50 修了生インタビュー調査報告
- 資料 51 修了生講演会（令和 2 年度学部新卒学生 2 年次「学校における実習」代替講義）資料
- 資料 52 修了生講演会（令和 3 年度「教育実践研究の方法Ⅱ（マネジメント）」）資料
- 資料 53 岡山県総合教育センター 高等学校国語研修 配布資料（2020 年 8 月開催）
- 資料 54 在校生・修了生の学会誌投稿、書籍・教育雑誌への執筆（2017～2021 年度）
- 資料 55 令和 3 年度独立行政法人教職員支援機構岡山大学センター研修講座要項「ESD／SDGs を踏まえた学校改善」
- 資料 56 「学生相談室」（『令和 4 年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』p.73）
- 資料 57 「障がい学生支援室」（岡山大学 web サイト）
- 資料 58 「ハラスメント防止対策室」（岡山大学 web サイト）
- 資料 59 「【在学生向け】新型コロナウイルス感染症対策を含めた学生生活の留意点」（岡山大学 web サイト）
- 資料 60 「キャリア・学生支援室」（岡山大学 web サイト）
- 資料 61 「教職相談室」（岡山大学 web サイト）
- 資料 62 『教職ガイドブック 2022』（岡山大学大学院教育学研究科・教育学部就職・学生委員会）
- 資料 63 「入学料・授業料免除」（岡山大学 web サイト）
- 資料 64 入学料免除・授業料免除実施状況（平成 29～令和 3 年度）（全学：学生支援に関する調査）
- 資料 65 日本学生支援機構・その他の奨学金 応募者数・採用者数（平成 29～令和 3 年度）
- 資料 66 特に優れた業績による返還免除申請者等一覧（平成 29～令和 3 年度）
- 資料 67 岡山大学研究奨励金に関する内規
- 資料 68 研究奨励金等受給者数（平成 29～令和 3 年度）
- 資料 69 岡山大学現職教員学生支援授業料免除申請基準
- 資料 70 教職大学院 現職教員学生支援授業料減免状況（平成 29～令和 3 年度）
- 資料 71 国立大学法人岡山大学教員の選考に関する規則
- 資料 72 教育学研究科の人事に関する方針について
- 資料 73 岡山大学大学院教育学研究科における教員の選考・審査に関する申合せ
- 資料 74 岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻における教員の選考・審査にかかる研究業績・教育業績等に関する申し合わせ
- 資料 75 国立行政法人岡山大学 次世代育成支援対策行動計画及び女性活躍推進対策行動計画
- 資料 76 平成 30 年度文部科学省教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「現職教員に対する研修講座・公開セミナー等の修了により教職大学院において単位を授与する制度の導入・プログラム開発」報告書
- 資料 77 同上 「別冊資料 岡山大学教職大学院ラーニングポイント制の理念と展望」
- 資料 78 岡山大学教育学研究科教員一覧表



- 資料 79 令和元年度・令和3年度の教職大学院の「教員の公募について（依頼）」
- 資料 80 令和4年度指導教員一覧及び教員別指導学生数
- 資料 81 専有の講義室の平面図
- 資料 82 専有の院生室の平面図
- 資料 83 「院生生活をより良いものにするために」（新入生オリエンテーション配布資料（P2 作成））
- 資料 84 学生室・院生室の使用について
- 資料 85 保有する学校教科書（購入履歴）
- 資料 86 教育学研究科管理運営組織図
- 資料 87 教職実践専攻運営委員会に関する申し合わせ
- 資料 88 令和4年度 教職実践専攻業務分担
- 資料 89 令和2・令和3年度 専攻共通経費 予算・決算状況
- 資料 90 専門職学位課程【教職大学院】教職実践専攻（『2023年度岡山大学大学院教育学研究科案内』pp. 5-13）
- 資料 91 『岡山大学教職大学院学修のプロセス 報告会要旨集』第9号（平成29年度）～第13号（令和3年度）目次
- 資料 92 岡山大学教職大学院 web サイト
- 資料 93 梶井一暎・熊谷慎之輔・小林万里子・高瀬淳・仲矢明孝・松枝睦美・三村由香里「教職員の学びの在り方から見た教職員研修の高度化・体系化・組織化」『岡山大学教師教育開発センター紀要』第12号、2022、271-285頁
- 資料 94 2021-2023年度 NITS 岡山大学センター事業 資料 「教員養成・研修の高度化・体系化・組織化に資する研修プログラムのモデル構築と横展開」
- 資料 95 令和3年度独立行政法人教職員支援機構岡山大学センター事務職員研修講座要項「学校運営の一層の充実と活性化を促進するマネジメント」
- 資料 96 文部科学省 web サイト 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教員養成部会（第109回）資料3 高瀬淳「現職教員に対する研修講座・公開セミナー等の修了により教職大学院において単位を授与する「岡山大学教職大学院学修プログラム」の制度（岡山大学教職大学院ラーニングポイント制）について」
- 資料 97 金川舞貴子・高瀬淳・高岡敦史・小林万里子・三沢良・熊谷慎之輔・梶原敏・槇野滋子、「ラーニングポイント制を活用した現職教員院生の変容と学びのプロセスの検討—修了生の事例をもとに—」, 日本教育大学協会『令和2年度日本教育大学協会研究集会 発表資料集』令和2年, pp. 68-71
- 資料 98 高瀬淳・小林万里子・宮本浩治・岡崎正和「教職大学院における教科教育領域のあり方の探究」、令和2年度日本教職大学院協会研究大会（Web 開催）令和2年12月6日発表資料
- 資料 99 金川舞貴子・槇野滋子・高橋典久ほか「岡山大学教職大学院の基本的考え方、学生Aの事例、現職教員学生「学校における実習について」, 「教職大学院スクールリーダー教育に対するアドバイザー事業」, 日本教育経営学会実践推進委員会（web 開催）, 令和3年5月14日発表資料
- 資料 100 岡山大学自己評価規則
- 資料 101 岡山大学部局自己評価実施規程
- 資料 102 令和3年度組織目標評価報告書（教育学部・教育学研究科）
- 資料 103 岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻自己評価に関する申し合わせ
- 資料 104 2020（令和2）年度教職大学院アンケート 意見と対応
- 資料 105 政策派遣教員ミッションに関する意見交換会
- 資料 106 岡山県・岡山市・各市町村教育委員会・学校管理職と教職大学院教員による協議会
- 資料 107 外部評価（第三者評価）の実施の枠組み
- 資料 108 独立行政法人教職員支援機構・教職大学院セミナー【事例研究】「学び続ける教員像」の実現のための環境整備について、先導的な取組事例から成果と課題を共有する」発表資料
- 資料 109 他大学からの訪問調査等一覧
- 資料 110 令和3年度連携協力事業研究報告書
- 資料 111 連携協力会議「教職大学院における『学校リーダー』養成専門部会」資料

- 資料 112 岡山大学教育学部附属学校園派遣教員テーマ一覧  
〔追加資料〕
- 資料 113 2022 年度大学院教育学研究科入試学生募集要項
- 資料 114 当初資料 2-2-3「岡山大学教職大学院ラーニングポイント制 による単位認定者（2019 年度以降）」
- 資料 115 令和 4 年度 岡山大学教職大学院 年間スケジュール表
- 資料 116 令和 4 年度 岡山大学教職大学院 時間割表
- 資料 117 令和 4 年 10 月時点での学籍異動状況
- 資料 118 自己評価シート
- 資料 119 令和 3 年度教職大学院教採セミナー実施計画
- 資料 120 院生組織（連絡会）
- 資料 121 2022 年度大学院教育学研究科入試学生募集要項（抜粋）
- 資料 122 教職大学院修学研修実施要項
- 資料 123 2 年間の学修プロセス（現職）
- 資料 124 専任教員個別表（担当単位数のみ抜粋）
- 資料 125 院生が使用できる機材一覧
- 資料 126 教職実践専攻運営委員会開催状況
- 資料 127 教職実践専攻運営委員会資料表紙（令和 2～3 年度）
- 資料 128 主な機材の更新・追加状況（令和 2～3 年度）
- 資料 129 FD 一覧
- 資料 130 2020 年度日本教育大学協会発表資料